

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272400490		
法人名	社会福祉法人奥津軽会		
事業所名	グループホーム八幡荘		
所在地	〒037-0309 青森県北津軽郡中泊町八幡字八幡32番地3		
自己評価作成日	平成24年9月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成24年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活の中に余暇活動として毎週火曜日の体力づくり、毎週土曜日には手工芸を取り入れ、利用者様本人にやる気、出来る意欲を持っていただき、体力・精神面で維持出来るような活動に取り組んでいます。また、余暇活動、行事については計画書を作成し実施後においては報告書を提出して、職員間で情報を共有し利用者様の状態確認に努めています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

保育園を改装したホームは玄関を入ると、家庭的な雰囲気を感じる。ホーム内は全体的にじゅうたんが敷かれ、履物なしでくつろがれているのも特色である。職員がいろいろ提案しながら、環境整備を自分たちで行っていることも家庭的な雰囲気である。居室は8畳程度あり、家族が訪れ、宿泊したり一緒にホームの食事を食べたりしていることから気兼ねなく関係を築いていることがうかがえる。 また、同町内のグループホーム同志での交流も活発に行われており、相互啓発の機会となっていて職員も他のホームでの取り組みなど体験するなどの取り組みをしている。 地域密着型の取り組みとしては、定期的に利用者と一緒に周辺の道路のゴミ拾いなど行い、地域の方との関係づくりに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

公益社団法人青森県老人福祉協会

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念として「利用者の思いに寄り添い、その人らしく、安心した生活が送れるようやさしいまなざしをもちます」と掲げ職員間で実践につなげている。	職員は地域密着サービスの意義や役割を理解し、皆で話し合い理念を作成されている。ケアの方向性で悩んだ際は理念を振り返り、理念の実現に向け取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内のゴミ拾い活動(1ヶ月に1度)を行ない、また納涼祭時、地域住民に参加を呼びかけ交流を図っている。	保育園児の訪問や、庭の東屋に子供たちが訪れたりしている。近所の除雪を手伝ったり、利用者とのゴミ拾い時には、気軽に声をかけてくれたり等、日常的に交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員がキャラバンメイトとして、地域の方々に認知症について理解、支援を求める活動を実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回(年間の開催予定計画作成)行い、参加者の意見などを今後の課題としてサービス向上につなげるようにしている。	利用者の生活の様子や行事、取り組み状況等を報告している。参加者から出された質問や意見は皆で話し合い、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの広報紙(だより)を2ヶ月に1回、行政に配布し情報提供、意見交換を積極的に行なっている。	運営推進会議以外でも、直接役場に出向き相談する等、顔なじみの関係になっている。3ヶ月毎に行われる町のグループホーム交流会に地域包括支援センターの参加もあり、管理者、職員、担当者との情報交換の場として活用されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「職員の心得」として拘束、抑制のないケアを掲げ、身体拘束についてマニュアルを設置し全職員が理解、身体拘束ゼロを徹底している。また、日中においては玄関は施錠せず出入り自由である。	研修会を行い、身体拘束をしないケアの実践に取り組まれている。玄関に施錠はせず見守りで対応されている。万が一の緊急時に備え、交番や消防署への連絡体制も整備されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修会のテーマ「身体拘束について」勉強会を開き、全職員に周知防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業、後見制度については外部研修に参加、資料を基に内部学習会を開き、全職員に周知し理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所、利用契約書で内容を説明し、利用者または家族より理解、同意を得て契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に意見箱を設置、意見を聞き入れる体制づくり、面会時には家族に本人の近況状態報告し、家族の要望を受け入れている。	家族からは面会時や年2回の家族会の顔合わせ等の際に意見や要望を伺っている。ホーム以外にも意見や要望を伝える機関があることも繰り返し伝えている。	さらなる意見の吸い上げのため、利用者、家族アンケートなどを実施し、ケアに反映されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	決定事項、行事、入所者の受け入れなどについて、その都度話し合いの場を設け意見交換している。	管理者と職員は気軽に話せる関係であり、個別の面談の機会も設けられている。職員から出された意見や要望は話し合われ、検討された結果も周知されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が向上心を持って業務に取り組むように、各自役割を持ち就業できるような体制に整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が外部研修に参加できるように計画を立て、受講者は報告書を提出、それを基に内部研修会を開催して全職員に周知し職員間での知識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム事業所(9事業所)と3か月に1度、交流会と題して会合を開き勉強会、情報交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今現在の利用者本人のニーズを把握する為に状態観察し、コミュニケーションをとりながら要望などを把握し、ニーズをケアプランに取り入れ、日々のサービス提供に取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から情報を得てアセスメントし、また家族の協力を得ながら一緒に支援していけるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の出来ること、出来ないことを把握して、家族と相談しながらサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の得意分野で力を発揮して頂けるように、食事の準備、盛り付け、掃除など職員と一緒にいき、苦勞、喜びを共感できる関係づくりに努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来荘時(面会など)、または「八幡荘だより」を通じて情報、意見交換を行い家族と一緒に支援できるような関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族の要望があれば馴染みの理美容店、友人宅等に職員が送迎して出掛け支援している。	職員は、馴染みの人や場所等の把握をしており、利用者の地元の祭りに参加したり、手紙と一緒に書いたり等、これまでの関係が途切れない様に支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格、人間関係を把握し利用者同士の良い関係づくり、環境づくりに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了後も、必要に応じて他の介護施設紹介、在宅での支援方法などの相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で情報を共有し会議等で話し合い、家族の了解を得たうえで、叶えられる要望には即対応している。	本人からの意見や要望があれば、皆で話し合い対応している。思いをうまく伝えられない方は、表情や仕草から把握したり、家族からも意見を伺い、本人本位に話し合い対応されている。	これまでの生活習慣や得意なこと、好きなことなどの情報をさらに集めて、記録に残し職員で共有し、日々のケアに活かしていくことを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族よりこれまでの生活歴、生活環境の情報収集に努め、サービス内容に取り入れ、経過についてはケース会議で話合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日常生活を状態観察して、個々の生活リズムの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望を聞き、1カ月に1度のケース会議で出された課題について職員の意見を計画に反映させ、ケアプランを作成して評価している。	毎月のケース会議で利用者の状況を話し合い、対応を確認し、本人・家族の要望を取り入れて計画を作成されている。定期的にモニタリングもしており、状態変化時や要望変更時には計画を見直しされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌(ケース日誌)にPC入力し、担当者が1カ月に1度評価を行い、介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の通院、買い物等の外出は本人又は家族の要望を取り入れいつでも対応できる体制で柔軟なサービスを提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて、地域住民、行政などと意見交換し取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医療機関に受診し、かかりつけ医と事業所との情報、連携を密にして支援している。	これまでのかかりつけ医のほか、協力病院との連携を図り支援されている。通院支援後は家族へ電話連絡し、情報の共有が図られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設（デイサービスセンター）の看護師と連携を図り、情報を共有して健康管理等の支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはお互いサマリーを提出、情報を共有して退院後も生活の延長がスムーズに行えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期等のあり方については、事業所でできる範囲を医療機関も含め、家族と話し合い相談し対応している。	終末期は基本的に対応する体制はないが、本人、家族、関係機関と段階的に話し合い、ケアの方向性を確認し、ホームで出来るところまでは対応する体制をとっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応としてマニュアルは設置していますが、応急手当等訓練は実施されていませんでした。H24年10月に内部研修会で初期対応訓練勉強会を予定している。。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回（昼夜想定）消防署立ち合いの下で避難訓練を実施。地域の消防団にも施設内見学して頂き、災害時には即対応できる体制を築いている。	火災発生時の対応方法を訓練日以外にも職員間で確認し合っている。消火器の使用方法、スプリンクラーの設置、備品の整備もされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重を大切にし、トイレ誘導、失禁時には他の利用者に知られないように配慮した声かけに努めている。	コミュニケーションの研修を実施しているほか、気になる言葉掛けがあれば、管理者はその都度話し、職員間でも注意し合う関係作りに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の要望が言えるような雰囲気づくりに努め、本人の力量に応じて自己決定を促すように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方はある程度決まっていますが、利用者個人の身体、精神状態に合わせた柔軟な対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容、または外出時(買い物、通院等)においては、本人に洋服を選ばせ、おしゃれに気配りしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を実施しそれを参考に献立作成し、食事の準備、後片付けは利用者と職員が一緒に行い、昼食時には同じ食事を一緒に会話をしながら、楽しい食事の時間を過ごしている。	食事中は利用者と一緒にテーブルを囲み、皆が食べ終わるまでは、無闇に立って歩いたり片付けたり等のことはせず、ゆったりと穏やかに食事の時間を共に過ごされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材係りが栄養バランスを考え、カロリー計算してメニューを作成。また食事摂取量、水分飲用に関しても個々に管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔うがいを実施し夜間は義歯洗浄して口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	おむつ外しに取り組み、個々の排泄パターンを把握し声掛け、誘導を行い力量に応じたトイレでの排泄、自立支援に努めている。	介護ソフトを導入し、おむつ外しに取り組み、排泄パターンの把握と改善状況をデータとして客観的に評価している。排泄パターンは変化する為、状況に合わせて対応し、排泄の自立に向けた支援に取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防対策として、個々に腹部のマッサージを取り入れたり飲食物にも乳製品の提供等、工夫しながら対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日は週3回(月・水・金)ホーム側で設定している。入浴日以外でも多量の発汗時など、状況に応じてシャワー浴の提供を実施している。	入浴する順番等は、利用者と話し合いながら平等に対応されている。入浴の回数は決められているが、必要時や希望時のシャワー浴等には対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝の体操、日中の活動時間(余暇・行事活動)を取り入れる等、夜間の安眠策を取り支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明書を設置、変更時には申し送り、記録を残し全職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	担当者が中心となり、対応日を利用して利用者一人ひとりにあった役割、楽しみを促し働きかけ、生活リハビリを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望が叶えられる範囲であれば、家族了解のもと、計画を立て外出の機会を設けている。	木曜日の午後は「対応日」と設定し、担当職員が買い物や馴染みの場所等へ外出支援を行っている。要望があれば日常的に散歩や外出支援が行われており、行事外出時には家族の参加もあり協力が得られている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族が希望される方には本人所持金として預け、買い物時には本人所持金で支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等はいつでも自由であり、手紙についても本人の希望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用場は皆さんでくつろげる様に照明、または特に居間でのテレビの音量に配慮し、また居間では金魚を観賞でき、家庭的雰囲気づくりに努めている。	リビングは量のスペースがあり、家具も家庭的なものであるため、落ち着いた空間となっている。職員の声のトーンも穏やかで、室温や光の配慮もされている。廊下にはソファが置かれ、景色を眺めて過ごせる空間も確保されており、居心地良く過ごせるような工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、廊下に長椅子を設置し、利用者同士で談話できるようなスペースを確保し、自由に使用して頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみのある物(家具、布団、仏壇など)を持参していただけるように、家族にも働きかけ、まずは本人が安心して日常生活が送れるように努めている。	居室には使い慣れた者や好みのものを持参され、居心地良く過ごせるような工夫がされている。家族が頻繁に泊まりに来ており、ホームを訪ずれやすい雰囲気作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、廊下、トイレに手摺を取り付け、安全に自立歩行できるようにし、居室入口には表札を掲げ、自室が分かるようにしている。		